

子どもと本をつなぐ 読書活動の推進

読書は、子どもが人生をより深く豊かに生きるために不可欠なものです。読書習慣を身に付けるためには、子どもが本の楽しさや魅力を感じることができる機会の充実が必要です。本に触れるきっかけがあり、手を伸ばすと好きな本や調べたい本がある。「子どもと本をつなぐ」取り組みや読書環境が本好きの子どもを育てます。

出典：千葉県子どもの読書活動推進計画(第四次)

市内小中学校の読書活動

市では現在4人の学校図書館司書が、各小中学校を週1回訪問し、子どもたちが自主的に読書に親しむことができる環境づくりを進めています。

この活動に加えて各小中学校では、朝の読書をしたり読書に励む児童に賞を贈ったりするなど、さまざまな工夫をすることで読書を奨励しています。

飯岡小が読書活動で文部科学大臣表彰を受賞

文部科学省では、子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書する意欲を高めるため、特色ある優れた取り組みを行っている学校、図書館、個人、団体に対し大臣表彰を行っています。

この表彰を令和2年度の子どもの読書活動優秀実践校として、飯岡小が受賞しました。

◇活動内容

教職員と学校図書館司書が連携し、学校の図書室を活用した授業の実践や、朝の読書、読み聞かせなどの活動を進めてきました。このことで、児童の読書の幅が広がるとともに、図鑑や調べ学習用の図書の読み方を知り、意欲的に学習を進める児童が増えました。

◇活動の体制

学校図書館司書が図書主任と情報交換をしながら、蔵書点検や新刊図書の購入などを行います。市図書館との連携や配送サービスを活用することで、読書活動を充実させています。地域ボランティアや保護者による読み聞かせ活動にも力を入れ、地域を挙げて読書の推進に取り組んでいます。

◇活動の成果

読書に関する授業の導入段階から、学校図書館司書が積極的に関わることで、より効果的で質の高い読書が行われるようになりました。進んで本に親しむ児童が増え、児童と本のつながりが深まりました。



学校の図書室で授業を受ける児童

あさひ輝いた人々 第28回

でんぷん製造を 一大産業に

さいとう かん
齊藤 寛 (1899～1976年)



でんぷん製造業の発展に大きな貢献をし、この地域の一大産業に成長させた立役者が齊藤寛です。

寛が生まれた明治32(1899)年ごろ、農家の収入源は主食の米以外ではサツマイモが中心でした。寛はサツマイモを加工して作るでんぷんにいち早く注目し、大正10(1921)年、21歳のときに江ヶ崎地区ででんぷん製造業を始めました。このころ戦争の影響による混乱の中、食糧事情は悪化する一方で、特に糖類の供給が非常に不足していました。この事態をなんとかしなくてはと、寛はサツマイモの安定的な生産を目指して、日夜研究に励みました。

昭和14(1939)年、千葉県東部澱粉工業協同組合初代

会長となり、昭和22(1947)年には、でんぷん製造に加えて水飴製造にも着手し、株式会社を立ち上げました。また、生産効率を上げるために機械の改良も積極的に行い、手動による方式から動力自動回転にすることに成功しました。性能、耐久性ともに優れたこの機械は、全国に普及したといえます。昭和28(1953)年に全国澱粉協会理事、昭和33(1958)年に東日本水飴組合会長、昭和34(1959)年には全国澱粉糖協同組合副会長に就任しました。

こうした功績から、推されて昭和37(1962)年に62歳で旭市長に就任し、昭和45(1970)年までの2期を務め、市役所庁舎、旭駅舎、市民会館、保育所、小学校の校舎など、近代化に伴う新しい時代の公共施設を多く完成させました。多くの功績が称えられ、昭和45年に勲五等旭日章を受章しました。農業、産業で発揮した手腕を、晩年は地域と行政に捧げました。



市制施行10周年記念式典の様子